



福島大学の大震災以降の取り組みとF-REIへの参画

東日本大震災



東日本大震災から13年が経過も、いまだ県内外に約2.6万人の避難者、風評被害、県内からの人口流出等、課題は継続している。

復旧段階

復興段階

福島国際研究教育機構への参画

福島大学ミッション2030
地域とともに21世紀的課題に立ち向かう大学

福島大学グランドデザイン2040
～福島大学4.0～

モデルビレッジ構想

地域課題解決を目指す研究に対し大学が支援 「地域交通」「ロボット」「農業再生」「再生可能エネルギー」「計測技術開発」など

福島イノベーション・コースト復興知事業採択

「復興農学会」を立ち上げ、農業再生研究のリーダーシップ 研究者・農業従事者・学生をつなぎ、標葉郡の復興をめざす

F-REI先行研究採択

ロボット分野と農業分野で先行研究採択 「復興農学会」を立ち上げ、農業再生研究のリーダーシップ 研究者・農業従事者・学生をつなぎ、標葉郡の復興をめざす

foR-F/Aプロジェクト

地域課題解決を目指す研究に対し大学が支援 「地域交通」「ロボット」「農業再生」「再生可能エネルギー」「計測技術開発」など

水素エネルギー総合研究所

水素エネルギーを中心とした再生可能エネルギーの研究と社会実装、人材の育成

発酵醸造研究所

食農学類に高付加価値をつけるとともに、医学や工学にも結びつける

食農学類創設

福島県民の要望に応え農業再生を目的に設置食と農業の未来を切り拓く

うつくしまふくしま未来支援センター (FURE)

- ・子ども・若者支援部門
- ・復興計画支援部門
- ・環境エネルギー部門
- ・企画・コーディネート部門

地域未来デザインセンター (CFDC)

ふくしまの幸福度を高めるための、地域のイノベーションオフィスを目指して、自治体や企業との高度な連携を模索 復興支援機能の継続

相双地域支援サテライト

浪江町、富岡町

F-REI エフとも

地域の教育、科学、文化等の振興を目的とした機関が活動の相互扶助（互助）を行う仕組み

廃炉人材育成プロジェクト

国内外の英知を結集し、原発の廃炉に向けた研究開発と人材育成を開始

SATREPS

チヨルノービリ原発事故に関するウクライナとの共同研究事業

環境放射能研究所 (IER)

・国内外との研究機関と連携
・6つの研究プロジェクト

有志教員による福島県内の線量調査

第1分野

ロボット・ドローン

環境放射能動態調査のための水中ロボットの開発とその応用に関する研究
(代表：共生システム理工学類教授・高橋隆行)

第2分野

農林水産研究の推進

- 極端気象に適応する次世代型ハウス環境制御技術の開発 (代表：食農学類教授・深山陽子)
- 福島浜通地域等の農林水産業の未来デザイン (代表：食農学類教授・小山良太)
- 土壌低分子有機物の植物栄養学的影響の解明 (代表：食農学類発酵醸造研究所特任助教・菅波真央)
- 果菜類収穫作業の軽労化につながる協調ロボットの開発及び新たな協調作業体系の構築 (代表：食農学類准教授・窪田陽介)
- モモ及びナシに関する輸出対応果樹生産技術の開発及び実証 (幹事：農研機構、本学代表：食農学類准教授・高田大輔)
- 大規模牧場を核とした耕畜連携のための技術開発及び実証 (幹事：東北大学、本学代表：食農学類准教授・牧雅康)
- 未利用資源等からのセルロースの低コスト抽出とプラスチック代替新素材としての活用 (幹事：東北大学、本学代表：食農学類教授・松田幹)
- 福島県の果実の超貯蔵による新しい価値創造の実現 (幹事：北海道大学、本学代表：食農学類教授・河野恵伸)

第3分野

ネガティブエミッションのコア技術

浜通り地域の資源を利活用した高効率・循環型ネガティブエミッション・治山視聴システム
(代表：共生システム理工学類教授・浅田隆志)

福島発ネガティブエミッション農業実現に向けた水稻のCO2固定機能強化技術の開発 (幹事：岡山大学、本学代表：食農学類発酵醸造研究所特任助教・菅波真央)

第5分野

原子力災害からの復興施策立案

- 水産業における放射能汚染対策の検証と安全性評価・風評対策にもとづく福島県漁業の持続的産地形成に関する研究 (代表：環境放射能研究所教授・和田敏裕)
- 福島浜通り地域における復興・再生まちづくり研究 (幹事：東北大学、本学代表：行政政策学類教授・西田泰保子)
- 原子力災害に関するデータや知見の集積・発信 (幹事：長崎大学、本学代表：環境放射能研究所教授・難波謙二)